

第一章 太田のこの50年間の変化



JR雨晴駅に設置した門松を見る大田雨晴観光協会役員ら

第一章 太田のこの 50 年間の変化

1 国道 415 号線の開通にともなって

(1) 伏木～氷見間の車道

国道 415 号線の認定は昭和 57 年 4 月 1 日で、氷見市熊無から富山市水橋までの区間が国道 415 号線になりました。

(2) 雨晴バイパスについて

一般国道 415 号線は、富山県西部の各都市を連絡する幹線道路です。このうち高岡市の、雨晴～伏木地内は雨晴隧道を含め幅員が狭く、見通しが悪い上に歩道もないことから危険な状態となっていました。このため、平成 2 年度から約 1.5 km の雨晴バイパスに事業着手し、順次整備が進められてきました。

都市計画決定の変更、共有地問題、国定公園区域への配慮、大断面トンネルの施工など、いろいろな課題がありましたが、平成 14 年 6 月 29 日、トンネル関連区間の完成により、永年の悲願であったバイパス全線の開通に至りました。

(県管理の国道)

○事業の概要

事業個所	高岡市太田雨晴～伏木一宮地内
全体事業費	約 52 億円
計画内容	延長 1,530m、幅員 6.5m
事業期間	平成 2～14 年度

○事業の経過

平成 2 年	事業着手
平成 5 年	雨晴側一部完成
平成 11 年	伏木側一部完成
平成 12 年	雨晴トンネル掘削開始
平成 14 年	バイパス全線完成

(3) 開通の効果

- ・雨晴海岸、万葉歴史館などの観光施設が有機的に結びつくことによる地域の活性化に寄与
- ・大型車すれ違い困難個所の解消、自転車・歩行者道の新設による安全で円滑な交通の確保

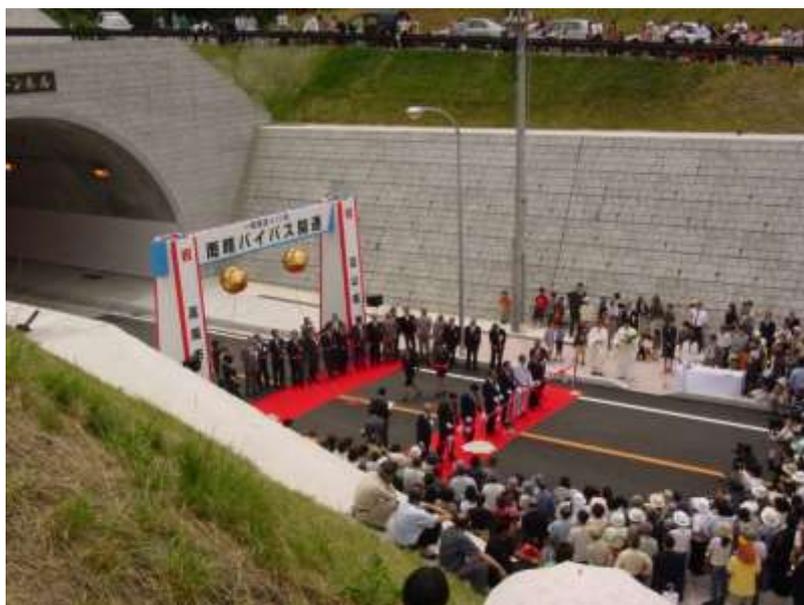
2 雨晴トンネルの開通と周辺の整備

(1) 雨晴トンネルの開通

雨晴トンネルは、県内初の大断面トンネル（内空断面 80 m²以上）であるうえ、土被りが平均 25mと非常に薄く、また地質が脆弱な泥岩、軟岩であることから、技術的に難度の高いトンネルとされていました。このため、トンネル工事専門家による検討会を設けて設計を行ったほか、施工においても、パイプルーフなど掘削面を安定させるための各種補助工法を導入し、地山の緩みや構造物の変位などに細心の注意を払いながら掘削が進められました。

○トンネルの概要

- ・延長 291m
- ・幅員構成歩道 3.0m+車道部 7.5m+歩道 3.0m=13.5m
- ・内空断面断面積 98 m²、内空幅員 14.4m、扁平率 0.57
- ・掘削工法 NATM（機械掘削）、上半先進ショートベンチカット工法
- ・工事費 約 18 億円



(2) もみじ姫公園の設置

高岡市太田字岩崎

平成 14 年（2002 年）11 月 30 日完工。国道 415 号線の雨晴トンネル工事の際にできた旧道との間のスペースを利用した公園です。

海拔 20m の緑地、約 2,000 m²に、ベンチ、あずまやが設けられ、JR 氷見線越しに立山連峰や雨晴海岸を眺めることができます。

「もみじ姫伝説」をイメージしたブロンズ像（(株) 竹中製作所の好意で建つ）があります。

※「もみじ姫伝説」参照

旧道と国道 415 号（雨晴バイパス）の分岐点付近が、太田と国分との分岐点で、旧道のアスファルト隅に目印が打ってあります。

(3) つまま公園の整備

高岡市太田字岩崎

平成 6 年につくられた小公園です。つままの碑があり、休憩できるあずまやが建てられています。歌碑は、安政 5 年に伊勢領の肝煎り、宗九郎によって建立され、その後有志により昭和 43 年 6 月新旧県道分岐三角点に移したという記録があります。（越中の万葉より）

○つままの碑

県下で 3 番目に古いとされる歌碑 安政 5 年建立、平成 6 年修復

（側面に安政 5 年 伊勢領 宗九郎建つと刻まれている）

※参考

渋谷崎を過ぎて巖の上の樹を見る歌

天平勝宝二年（750 年）の大神家持の歌です。大正 7 年、松井巖夫が道端

に倒れていた歌碑を見出しました。その歌碑はこの歌を原文のまま漢字のみの万葉仮名という文字で刻んだもので、「安政五年（1858 年）伊勢領、宗九郎之を建つ」と、側面に刻まれています。この歌碑は、県内に現存する万葉歌碑中、3 番目に古いものです。現在、岩崎のつまま公園に、たぶの木とともに大切に建てられています。歌碑を建てた宗九郎は太田村の肝煎であり、太田村大畠に住んでいたため、その地名をとって大畠宗九郎と称したといわれています。武田家の遠縁にあたるという人で、和歌・墨画・木彫を楽しみ、万葉集に心を通わせ、郷土の風物に歴史を思う人だったのでしょう。



「磯の上のつままを見れば 根を延えて 年深からし 神さびにけり」

磯の上につつま（たぶの木）を見ると、根を岩にしっかりおろして何年も年を経ているらしい。なんと神々しいことか。

3 雨晴駅とともに

(1) 雨晴駅にみる世の中の変化

大正元年（1912）中越鉄道伏木一島尾間が開通し、「雨晴停車場」となり、地名の「雨晴」が誕生しました。雨晴駅が設置されて以来、太田・雨晴は海水浴場、避暑地として発展し、夏季には貸席・浜茶屋等が設けられ、にぎわいました。地元にとって通勤・通学の足、観光を含めた太田の発展に寄与してきました。

しかし、車社会の進展とともに、氷見線の利用客は減少しています。

（例 昭和 53 年 1 日当たり 11,800 人の利用客が、昭和 61 年には 6,500 人に）

昭和 62 年（1987）4 月には、国鉄が分割民営化され、J R に改称されました。また雨晴駅の駅員も国鉄時代には駅長以下 10 数名の職員が勤務していましたが、J R になると同時に駅員が廃止され、現在は国鉄 O B の方々に切符販売等の業務をお願いしています。

(2) 雨晴駅 90 周年記念式典から、100 周年記念式典へ

平成 15 年（2003）11 月 1 日、J R 雨晴駅 90 周年記念式典が開催されました。駅前広場に観光誘致のために設置する大型パノラマ看板の除幕式も行われ、雨晴を訪れる観光客に、天候の悪い日でも、絶景の雨晴海岸から見る立山連峰を堪能してほしいという思いが発信されました。太田保育園や小学校の幼児・児童による雨晴音頭や太田の特産物試食販売がなされました。



また、これに先立ち、「氷見線全線開通 90 周年記念 SL シーサイド号」が 2002 年 9 月 14 日から 16 日の予定で氷見線を走り、住民や愛好家を喜ばせました。

平成 24 年（2012）9 月 15 日、雨晴駅開業 100 周年記念式典が、地区住民や観光客ら約 900 人が参加して盛大に開催されました。初めての歩行者天国やアトラクションでは、3 地区の獅子舞共演、保育園児のマーチングバンド、小学生の雨晴音頭やつままの舞、ダンス、さらに大道芸、餅つき、売店、ミニ水族館、抽選会などが企画・開催されました。また一方、懐かしの写真、記事、資料等の展示もあり、郷土のよさを再認識している方もありました。



平成 27 年（2015）10 月 10 日より、観光列車愛称「べるもんた」が、城端・氷見線に導入されました。（要予約、土日祝のみ 1 往復運行）太田雨晴観光協会のメンバーが、「め・い～わちゃん」のしおりを乗客に配るなどして地元の名所をアピールしました。

(3) 雨晴駅がギャラリーに

太田雨晴観光協会が広く写真愛好家に発信して、これまで 2 回のフォトコンテストを開催しています。

第 1 回目は、平成 22 年（2010）応募者 33 名、応募作品数 80 点の中から優秀作品が選出され、駅待合室に展示されました。

第 2 回目は平成 29 年 3 月（2017）「写真愛好家による雨晴海岸の四季折々」と銘打って募集され、写真展示スペースとして「雨晴駅ギャラリー」が開設され展示されました。さらに地図等を改訂する際に掲載を予定しています。写真等は、コロナ禍にあって取り外しを余儀なくされましたが、素晴らしい作品をこの冊子やこれから作るパンフレット等に活用できたらと考えています。

また、駅前広場に設置した大型パノラマ看板が、時間の経過に伴って損傷したり色褪せたりしてきたのを機に、修復、架け替えを行ってきました。雨晴を訪れる観光客に、天候の悪い日でも、絶景の雨晴海岸から見る立山連峰を堪能してほしいという願いからです。

さらに、駅構内から有磯海が見通せるように、駅裏の雑木を伐採し、広場として整備するなど、市や県の関係機関に働きかけて整備を進めています。





第二章 太田の産業の推移



第二章 太田の産業の推移

1 人口の推移

現時点で分かっている太田の世帯数、人口の推移を表にしました。

年（西暦）	世帯数	人口（人）
明治 22 年（1889）	151	1,682
明治 40 年（1907）	244	1,875
大正 14 年（1925）	407	2,111
昭和 5 年（1930）	437	2,272
昭和 30 年（1955）	619	3,301
昭和 45 年（1970）	723	3,197
平成 14 年（2002）	849	3,142
平成 23 年（2011）	868	2,763
令和 4 年（2022）	853	2,197

130 年余り前からの世帯数、人口の推移を見てください。世帯数が最高だったのは、平成 23 年で、人口が最高だったのが昭和 30 年の 3,301 人と分かります。

特に昭和 45 年から令和 4 年までに注目してみると、世帯数が 130 世帯増えたのに、人口が 1,000 人減少していることが分かります。

年齢層までは分かりませんが、少子高齢化、若い世代の減少、空き家の増加等、推察されることがたくさんあります。

なお、農業、林業、水産業、観光施設と老人福祉施設等については、以下の項でそれぞれに記述しておきます。

2 農業

(1) 持続可能な農業経営に向けた現状と課題（太田地区）稲作

○展望

持続可能な農業経営の維持・発展と地域農業の振興を目指しています。

○現状

農業生産者の高齢化・後継者不足が進んでいる現状です。

現在、農家組合（J A 高岡）員数は 334 人で、法人が 1 団体です。

農家組合員の戸数は 301 戸で、内水稲耕作戸数は 89 戸です。

水稲面積別に見て、過半数が 10～30a の比較的小規模農家です。

30～50a の中規模と思われる農家が 4 分の 1 弱です。

- ・ 太田地区の田地の耕地面積は 84.6ha（内、休耕田 3.5ha）
- ・ また、畑地は 7.8ha、樹園地は 2.1ha です。
- ・ 令和 4 年産水稲銘柄別面積は、コシヒカリが 8 割を占めています。

【水稲面積別農家戸数】

水稲耕作戸数	10～30 未満	30～50 未満	50～1ha 未満	1ha～3ha	3ha 以上
89 戸	51	22	8	6	2
比率	57.3%	24.7%	9.0%	6.7%	2.3%

【耕地面積】

田地	84.6ha（内、自己保全管理地 26.5ha 休耕田 3.5ha）
畑地	7.8ha 樹園地 2.1ha

【令和 4 年度水稲銘柄別面積】

富富富	0.34ha	コシヒカリ	40.65ha	てんたかく	6.77ha
新大正もち	0.92ha	飼料米	5.92ha	合計	54.6ha

○課題

- 1) 70 歳以上の耕作者で、後継者が未定の農地が約 20ha あり、農地を遊休化させないよう、担い手の確保が喫緊の課題です。
- 2) ため池からの灌漑用水のため、水田全域に係る用水の確保が困難な状況です。
- 3) 平成 26 年夏ごろから、イノシシによる農作物への被害が深刻化しており、水田の周囲を電気柵で囲む、侵入防止策（鳥獣被害防止総合対策事業）を現在も実施・継続しています。

※鳥獣被害防止総合対策事業（令和 3 年末電気柵累計）＝29,485m

○その他

- ・ 有線放送事業の終了について

有線放送については、昭和 37 年 7 月から太田農協の運営により事業を開始し、昭和 39 年の農協合併により、同年 6 月に太田農協から高岡市農協に経営が移管されました。その後は、太田地区の組織である太田有線運営協議会が運営し、電話交換や放送、利用料金の徴収や修繕工事などの業務を行っていました。後に固定電話の普及や設備の老朽化、さらには携帯電話の普及などにより、利用

者が逡減してきたことから、高岡市農協管内の支店において有線放送事業が順次廃止されたことなどを踏まえ、太田支店においても、平成 25 年 1 月末に電話交換業務を中止し、同年 2 月に総務省より事業廃止の承認を受け、放送業務を含むすべての事業を終了しました。

(文責 J A 高岡太田センター長 山田 勝彦)

(2) 太田西部土地改良区

昭和 37 年 7 月 12 日県から設立認可

土地改良事業（農地や水路を改良する）によって作られた農地や施設を維持管理している農業者の組合。

- ・ 第 1 期（西部地区）昭和 37 年 4 月～昭和 40 年 3 月 土地改良工事
- ・ 第 2 期（東部地区）昭和 49 年 4 月～昭和 52 年 3 月 土地改良工事
- ・ 与茂九郎池 昭和 63 年～平成 5 年 堤体の嵩上げ、洪水吐・取水施設の改修
- ・ 平成 14 年 2 月 1 日 高岡市土地改良区に事務移管
- ・ 赤尾谷内池 平成 6 年～9 年 3 号、4 号、5 号を 3 号に統合。取水施設も新設。
- ・ 管理している池＝与茂九郎池、赤尾谷内池、熊谷池

○地区委員長

安田晋一

竹本武男

吉本隆之

竹本俊之（令和 4 年度～）

(3) 太田地区農地保全会

平成 27 年 3 月 28 日設立

○目的 太田地域の農用地、水路、農道等の保全を図る。近年はイノシシ対策も大きな事業となっています。

○構成 各地区より選出された委員 11 人と役員 7 人により、運営されています。設立時より、竹本武男氏が代表を務めています。

(4) 太田中村地区環境保全会

平成 26 年 4 月設立

○目的 中村地区内の農用地法面、農道、水路法面の草刈りや、美しい農村景観形成に向け、農道、水路沿いに花の植栽に取り組んでいます。

○運営 農業者 11 人が役員となって運営されていますが、花の植栽については一般住民も参加しています。

○代表

平成 26 年～30 年 竹本哲夫

令和元年～ 鞍田卓夫

(5) 太田の特産物…サツマイモ、竹の子、しめ縄

① サツマイモ

県内有数のサツマイモどころ。昭和末期から平成初期にかけて最盛期で、5～6tの出荷がありました。殿山、御庭（オニワ）、平（ダイラ）地区の土壌は赤土で、鉄分を含み、水はけがよく、しかも保湿性に優れており、潮風の塩分でうまみを増しています。課題は高齢化と後継者不足です。

○太田甘藷組合

昭和50年8月1日結成。初代組合長は土田周一氏。

平成22年、組合員22名、出荷17kg×228ケース。

その後停滞し、平成26年再出発。

現在 吉田勉氏が組合長。出荷1.6t、出荷組合員は5～6名。

その他の組合員は、生産するがキャリングのみで出荷はしていません。

※キャリング＝一定の温度で保存することにより、うまみを増す。JA太田支店倉庫にて。

○銘柄 結成当時は『農林1号』でしたが、現在は『金時』『紅ハルカ』『紅アズマ』『ムラサキイモ』『安納イモ』の5種類。

○取引先 学校給食、あぐりっち、天然温泉「海王」の3か所。

② タケノコ、竹の子めし

- ・谷内、西田地区の竹林は年間を通して整備され、「西田の竹の子」として高値で取引されて、4～5月には多くの人が「竹の子飯」を堪能します。竹は放置されると1年で10%ほど増加密集して竹やぶへと変化します。孟宗竹は、ピーク時には1日1m以上高くなり地下茎は1年で8m伸びるといわれます。国内で繁殖することになったのは、1736年薩摩藩が琉球から食用に2株を入れたことが発端とされます。石川県内に広く分布する孟宗竹も、18世紀半ばに金沢で植栽されたことが契機であるとのこと。国内移入は、資源として利用する目的であったそうです。

（「富山新聞」H29.6.26より）

- ・昔から国泰寺が参詣者に朝掘りの新鮮な竹の子料理を出していました。谷内・西田地区の竹の子はえぐみが少なく、香りがよくおいしいといわれ、その味のよさから「国泰寺の竹の子」「西田の竹の子」と次第に名が広がりました。その結果、季節になると国泰寺に特別に頼んで食べに来る人が増え、昭和27年国泰寺付近の家の中から竹の子を商業化する家が現れました。「えぐみ」がないことで有名な西田の竹の子

(NHKためしてガッテン H31. 4. 10 より)

・「伝統の味 西田のたけのこ」

(NHKニュース富山人 H27. 4. 28 より)

○タケノコの収穫量

昭和 55 年	約 70t
昭和 57 年	202t
昭和 59 年	150t
平成 11 年	58t

(調査期間昭和 55 年～平成 11 年
以後調査なし)



○西田たけのこ生産組合

昭和 63 年 45 人 10ha 100t

(「高岡市の農業 1988」より)

③ しめ縄

・終戦後、谷内地区の寺嶋もとさんが呉西地区のしめ縄の編み方を見習って始めたと聞く。現在 6 軒が、稲わらを用い編んでいる。しめ縄は、素戔嗚尊（すさのおのみこと）の乱暴を恐れ、天の岩屋（あまのいわや）に隠れた天照大神（あまてらすおおみかみ）が再び中に戻れぬよう張り渡した尻久米縄（しりくめなわ）が始まりといわれている。門口や神棚、床の間にかけて邪気をはらい、正月様を迎えて豊作、大漁、家内安全を願うという長い歴史を秘めているという。日頃は慣習や伝統と縁遠い暮らしをしても一年の終わりに立ち返る。太田小学校では、秋に学校田等で刈り取った稲わらを用いて、縄の編み方や御幣の取り付けを地域の人たちが教えているという。

(「北日本新聞 天地人」 H28. 12. 19 より)

形はどの地域でも形を変えながら縁起づくりを継承されていますが基本は稲わらの 3 本縄で左編みし、そこにお飾りを付けて、家の前につるし、元旦を迎えます。

○西田×縄制作部

6 グループ

○生産量 60,000 個

(「高岡市の農業 1988」、「高岡市制



100年誌」H3.12月より)

・ 藁（わら）の加工の歴史

明治頃より農家では藁（わら）の加工による筵（むしろ）・吠（かます）等の生産が盛んで、現金収入が得られることが魅力であったという。冬に野良仕事ができないために、各農家で吠用の藁加工が盛んになり、昭和30年ごろが最盛期であったという。その後、池田内閣の所得倍増計画により入れ物が、吠→木工→ビニル・ナイロン、段ボールなどの使用に変化。藁加工は次第にすたれ、わずかにしめ飾りとしてみることができるといふ。

（氷見市立博物館「氷見の農家のくらし」R1.6月参考）

機械化で大量生産できる便利で手軽なしめ縄がつくられる昨今、しめ縄にも機械化の波が押し寄せ、家内作業から企業経営的な家内作業になってきていると聞いています。

(6) 殿山農園

高岡市太田殿山 5243

平成29年より、代表林松弘氏。作付け品目 ブドウ、モモ、リンゴ。

1.9ha。現在、味覚狩りを中止し出荷販売のみ。ジュース、ジャムの加工販売も。近年、イノシシ、ハクビシン、カラス、ヒヨドリ等の被害額が100万円以上に上ります。

○出荷先 JA高岡、ひみ番屋街

(7) 太田ラッキー農園（前太田農園）

高岡市太田平 6539

令和元年より、代表 渡部民雄氏 約2ha 野外バーベキュー、イモ掘り体験ができ、年間1,200人が利用。令和3年はイノシシ被害が大きく出荷できませんでした。

○サツマイモの生産販売 70a

○サツマイモの品種 イモ掘り用『紅アズマ』

販売用『紅ハルカ』『金時』『シルクスイート』

○出荷先 太田甘藷組合へ納入

3 水産業

(1) 海岸について

太田地区は、白砂青松で遠浅の海岸であり、岩が散在し美しい景観を呈しています。ゆえに国定公園、渚百選に指定されています。古くから大伴家持、松尾芭蕉、横山大観など多くの有名人が訪れています。近年は、道の駅「雨晴」が完成したこ

とが人気に拍車をかけています。

しかし、近年は特に砂浜が浸食され、一層狭くなってきているのが悩みの種であります。海水浴場など貴重な観光資源となっている全国の海岸が波で浸食され、国や自治体が対策を講じているにもかかわらず、砂浜が消滅し続けています。1960年代から各地で活発化した川の護岸工事やダム建設により、砂の供給源だった川から流れ出る土砂が減少していることにも一因があるようです。湾岸施設を守るための防波堤などで海中の土砂の流れが遮られ、砂浜までたどり着かなくなったことも主な要因とされています。

(2) 護岸道路の電灯設置について

これまで護岸道路に電灯が3か所しかなかったのですが、地元有志が北陸電力会社に掛け合って、地元負担なしで33灯を設置できました。現在はLEDカラーポール柱で夜の散歩の安全が確保され、また海上より眺める素晴らしい景観を作っています。

※電柱LEDは27灯になっています。夜間に点灯するポールは8本です。

(3) CCZ計画について

CCZとは、コースタル コミュニティー ゾーンの略。「ふれあいの海辺」の意。海洋性レクリエーション、ふれあいの海づくりとして港の造成、漁船・プレジャーボートの保管・停泊設備が国の一大事業として整備されました。平成12年に工事に着手され、平成16年10月完成。完工を盛大に祝いました。

※海上係留25隻、陸上係留79隻の収容能力があります。

※昭和56年度から海岸整備（緩傾斜護岸など）が進められ、平成4年度に国のCCZ整備計画の認定を受け、突堤や人工リーフ、養浜、遊歩道等の工事が進められました。

※昭和56年度以降の総事業費は約51億円。



(4) 太田浦健康管理推進施設の建設

平成6年6月に完成。これは氷見漁協と太田浦地区運営委員会が、漁業者や地域住民の健康増進のために願いを込めて作られたものです。

※太田浦漁業協同組合は昭和63年6月に発足し、氷見漁業協同組合に加入。

(5) 海岸の砂浜、松林、寄り廻り波について

年々浸食され、かつての砂浜がなくなりつつある中、テトラポットは旧型のものが撤去され、改良型のものに置き換えられました。景観を損ねないよう海水面ギリギリに設置し、さらに黄色いポールを立て、夜間灯りをつけて船が座礁しないよう配慮されています。これによって立山連峰がきれいに映えるよう、景観に配慮しつつ波の浸食を抑えているのです。

平成20年（2008年）2月23日から24日にかけてここ雨晴海岸にもより廻り波が発生し、堤防を乗り越える事態になりました。船の流出・沈没があり、陸に挙げられていた漁船もぶつかるなどの被害が少なからずありました。このとき、伏木外港の堤防（ケーソン）が波の力で破壊されました。

また、たくさん生えていた大きな松が松くい虫の被害にあっています。毎年、市が駆除用消毒液を散布していますが、効果は今一つないように思われます。今後の被害が心配される中、平成26年10月に知事、市長、辰ノ口東部第二自治会、老人クラブ、つまま会などが参加して黒松の苗木を移植しました。現在は大人の身長ほどに成育しており、今後の楽しみにしたいと思っています。

(6) 漁業の形態と海の様相の変化について

現在は小型定置網1、刺網2、漁船の数10隻です。

以前行われていたタコ漁、ワカメ漁、テングサ、ホンダワラ（正月用に）はなくなりました。今後とも復活は難しいとされています。

近年気温の上昇とともに海水温の上昇もあることから、かつて岩に生えていたテングサやワカメなどは、現在ほとんど生えていません。実際に海に潜ってみると、岩が白くむき出しになって（白化現象、磯焼け現象）いる状態が見られます。それゆえ、以前はここに住んでいた魚たちにとっても住みにくくなっているだろうと考えられます。

さらに海の汚染については、海岸に打ち上げられているごみから知ることが多いです。近年は特にプラスチックごみ（固体、小さな破片、マイクロ化）が大きな割合を占めて目立つようになってきました。最近1～2年は注射器、注射針なども打ち上げられ、ごみ拾いの際には取り扱いに注意が必要です。

風の吹く方向にも変化が認められます。今は一年を通して西風の割合が大きくなってきています。これまで、冬は北または北東の風が強く吹いていましたが、冬の季節でも海は荒れることが少ないです。したがって春先の天然ワカメ、岩ノリなどが、ほとんど採れなくなったようです。また、北風が吹くとよく「波の花」ができて風で飛ぶ姿が見られたものですが、今はもう見られないです。

かつて砂浜を歩いていると、貝ダコ（アオイガイ）の小さなものや大きなものを見つけることができましたが、これも今は見られません。

※現在ほとんど見られなくなった魚、貝、アオイガイ（カイダコ）、フジのハナガイ、砂ガニ、モクズガニ、磯ガニ、ソイ、アイナメ

(7) 松太枝浜浄化センターについて

太田校下独自の下水道浄化センターであり、平成5年（1993年）に完成。浄化槽の上は太田グラウンドとして利用されています。完成式にはあがり物（ヤラヤラ）が練り歩き、にぎやかに祭り一色となりました。これを機に各家庭でのトイレの水洗化が大きく前進し、環境面、衛生面が大いに向上しました。

(8) 海難、水難事故について

CCZ整備・完成以降、海難、水難事故が今日まで3件発生しています。平成18年（2006年）10月8日から9日に集中しました。

- ①平成18年10月8日、寄港するプレジャーボートが波を受け転覆し、2人が投げ出されました。1人は助かりましたが、他の1人は県のヘリコプターで救助されるも人工呼吸の甲斐なく死亡。場所は港の入り口付近でした。
- ②同10月9日、防波堤に釣りに来ていた父子2人が高波にさらわれ、港内に落ちました。父親は助かりましたが、子（中学生）が行方不明となり、2日後の11日に遺体で発見されました。
- ③釣りをしていたプレジャーボートが強い北風により義経岩付近で座礁。乗っていた人は無事でした。船は後日、氷見より来たサルベージ船が吊り上げ、処理されました。

4 観光業

観光施設として、自然休養村、磯はなびと道の駅「雨晴」を挙げてみましょう。

(1)-1 高岡市自然休養村

○自然休養村の設立と廃止の経緯

- ・昭和48年に高岡市太田地区は「自然休養村」の地区指定を受けました。
- ・昭和52年に社団法人高岡市自然休養村公社が発足し、昭和52年に管理センター（愛称：アップレハウス）が完工しました。



○設立目的

公社は管理センターを運営し、市民等に休養の場及び機会を提供するとともに、観光農林漁業の育成指導を図ることを目的としました。

○出資者出資金

高岡市、農業協同組合、地区農業者他出 12 名、計 24,400 千円

○公社施設

管理センター 昭和 52 年度設置 鉄筋コンクリート 2 階建 774 m²

農林漁業体験実習館 昭和 55 年度設置 鉄筋コンクリート 3 階建 657 m²

ゲートボール場 屋外 2 面、屋内 2 面

テニスコート 2 面

○関連施設

自然休養村遊歩道、自然休養村農道、太田農園、殿山農園

○平成 23 年 6 月 「あり方検討委員会」の設置

- ・高岡市太田自然休養村は、昭和 48 年に自然休養村として地区指定を受け、それ以来、多くの市民に利用されてきました。しかし、人々の余暇の過ごし方やレジャーに対するニーズの多様化等によって、来訪者が減少傾向にありました。
- ・また、昭和 53 年の管理センター開設以来 30 年以上経過し、施設・設備が老朽化してきて、毎年修繕が必要となってきました。さらに、入浴、日帰り宿泊事業が減少し、利用者は年間約 30,000 人となっており、利用者の減少で赤字が続き、施設の運営が首しい状態になってきました。そこで、4 回（①平成 23.7.1、②平成 23.8・8、③平成 24.1.31、④平成 24.3.28）の「あり方検討委員会」で作成された報告書に基づき、経営改善計画が平成 24 年 5 月に作成されました。
- ・平成 24 年 1 月には 2 回（①平成 24.1.16、②平成 24.1.29）高岡市自然休養村公社に関する意見交換会が開催されました。
- ・平成 24 年 9 月「高岡市太田自然休養村運営協議会」が設置されました。平成 24 年から平成 28 年までの 5 年間毎年、4 回（①平成 24.9.26、②平成 25.11.18、③平成 26.11.17、④平成 27.11.18）の運営協議会を実施して運営改良に努力してきましたが、平成 30 年 1 月臨時総会で、「平成 30 年 2 月 25 日営業終了」が決定されました。
- ・高岡市公共施設再編成計画に基づき、更地にすることが決定しました。

(1)-2 アッパレ王国の開設

- ・大統領、閣僚を選任し、消防音楽隊などで建国を祝いました。
- ・昭和 63 年にアッパレ王国の第 3 回自然休養村まつりが開催されました。

※ 8 月 27 日（土）～28 日（日）「来てねアッパレ王国」

チラシに『アッパレ王国国歌』（古川修二作詞、滝井良江作曲）の印刷

- ・平成8年8月24日～25日 最後のアップレ王国まつりが開催されました。

(1)-3 太田農園いこいの里

太田字平 6539

- ・農事組合(法人)太田農園 高岡市北部グリーンツーリズム推進協議会
- ・昭和52年5月野外バーベキューができる「いこいの里」がオープン。
- ・昭和55年11月13日 野外緑地施設「バーベキュー」がオープン。
- ・鉄筋平屋建て105㎡、工費925万円
- ・キャンプ場、ちびっこ広場、農園、遊歩道等あり、季節料理(4～5月上旬)バーベキュー、いも掘り体験(8月下旬～11月上旬)が楽しめる施設でした。

(2) 雨晴温泉 磯はなび

令和4年(現在)、「雨晴ハイツ」開業より43年目、「磯はなび」として20年目となります。



○主な歴史

- ・昭和54年7月(1079年)「農協共済 雨晴ハイツ」として開業。
- ・昭和59年3月(1984年)宴会場、会議室、客室増築。
- ・平成元年8月(1998年)温泉大浴場増築。コンベンションホール「立山」を増築。これにより270名までの会議が収容可能になりました。
- ・平成8年8月(1996年)大浴場を「パノラマ温泉大浴場」に改修。
- ・平成14年6月(2002年)約1年間をかけ建物の客室、宴会場棟を取り壊し建て直し、客室数39室から5室増室。名称を「雨晴ハイツ」から「雨晴温泉 磯はなび」と改名し、リニューアルオープンしました。

※「磯はなび」とは海岸地域に生息する松の一種「イソマツ」の別名のこと。

- ・平成18年6月(2006年)露天風呂付き大浴場「ゆらく」男湯1、女湯1を増築。これにより既存の浴場と合わせて4つの浴場をもちます。
- ・平成19年9月(2007年)8階フロア、客室を高級な趣に改装し、最上階客室を「天の庭」としリニューアルしました。

(3) 道の駅「雨晴」

道の駅「雨晴」から富山湾越しに望む立山連峰は、世界にも誇る絶景です。

平成30年4月25日道の駅「雨晴」がオープンしました。

道路利用者の疲れを癒すとともに、市民



や観光客等が絶景を楽しみながら、地域の食や特産品を堪能できる場を提供し、雨晴の絶景とともに思い出に残る施設の運営を目指しています。道路利用者やこの絶景を眺めることを目的に訪れる観光客に、遙かな遠景を望むことで、感覚や思考の変化という他にはない体験ができる特別な空間を目指しています。

○館内施設

- ・ 観光案内所・情報発信コーナー
- ・ Souvenir Shop ARISO
銅器や漆器等を中心とした高岡のクラフト作家作品のほか、農林水産加工品、伝統や文化を感じる地酒・地元銘菓・雑貨等取り揃えています。
- ・ Cafe ISOMI TERRACE
地元産の食材を盛り込んだランチ、スイーツやドリンクを楽しめます。
- ・ 2階3階展望デッキ (株) 山口久乗より寄贈された「おりん」設置
- ・ マーケットスペース
- ・ 歌碑 大伴家持と松尾芭蕉が詠んだ雨晴ゆかりの歌が刻んであります。
- ・ 世界で最も美しい湾クラブ富山湾PR案内板
- ・ 3階多目的ルーム 一般への貸出もできます。

(4) 高岡市地域おこし協力隊 佐藤順さん

地域おこし協力隊は、高岡市が令和4年に広く全国に募集をかけたものです。佐藤さんは様々な要件をクリアして市から任命を受け、令和4年10月から太田に住み、情熱をもって活動されています。国泰寺など歴史文化遺産があふれる太田をもっとPRしたいと考え、現在太田雨晴観光協会の活動のほか、高岡市内の観光ボランティア活動に参加している。また、太田住人として、イベントの立案、休耕田の活用など、地域の方々と一緒に太田をめいっぱい楽しむことを目標に活動しています。

○業務内容

- ・ 太田雨晴地区を拠点とした高岡市北部地域の魅力の再発見と情報発信
- ・ 地域と連携した地場商品のブランディング、販売
- ・ 地域の自然や歴史文化資産等を生かしたイベントの企画、運営
- ・ 地域コミュニティ活動への協力

地域おこし協力隊

佐藤 順

移住してまだ1年経っておりませんが、太田小学校 150 周年誌に寄稿できることに、まず感謝申し上げます。太田に移住して以来、非常に多くの方に声をかけていただき、助けていただいていることに感謝しきれません。浜から望む朝焼けの景色、潮の匂い、渡り鳥や二上山の鳥のさえずりなど、都会の暮らしでは気付くことができなかつた季節の移ろいを、肌で感じずにはいられません。約 1,300 年前に万葉集でも詠まれた自然が体感できる奇跡は太田の宝の一つだと感じています。

そして太田の一番の宝である子どもたちに、脈々と受け継がれる様々な伝承に、心動かされずにはいられません。「太田のもんは学校で習うからみんな知っとっちゃ」と「つままの歌」を詠み舞い、特に雨晴音頭を見た時は、これは是非でも踊れるようにならなければ、太田の住人と言えないと感じました。老いも若きも伝統と風習を持てる事は、太田にとっては当たり前なのかもしれませんが、私が育った場所ではすでに失われつつあります。私は地域おこし協力隊として、太田に移住してきた住人として、この大好きな太田を心から愛している地域の皆様と一緒に盛り上げる活動がしたいと考えています。

まずは、皆さんと一緒に雨晴音頭が歌い踊れるようにご指導いただければ幸いです。

(5) 観光協会

太田には、雨晴観光協会と太田雨晴観光協会の2つの協会があります。それぞれの特性を生かして活動をしています。

①雨晴観光協会

毎年、海開きの神事を取り仕切り、海水浴シーズンが安全に楽しく過ごせるように便宜をはかってきました。大がかりな海岸のごみ拾い運動や清掃活動を継続しています。かつてはたくさんあった海の家やキャンプ場の安全など多岐にわたる活動を継続してきました。

②太田雨晴観光協会

雨晴海岸から国泰寺に至る太田全体を視野に入れた観光資源の開発、保全、開発に努力しています。特に雨晴駅周辺の美化や景観の保護活動、パノラマ看板の設置、「太田雨晴観光マップ」や「雨晴散策路」等パンフレットの発刊等に尽力しています。今年成立 20 周年を迎えました。道の駅「雨晴」周辺の道路の安全や踏切、松林、流木、空き家等、話題にしながら観光ガイドや関係官公庁への陳情等を継続しています。

(6) 観光ボランティア

最初は、絵本の読み聞かせボランティアの活動をするために、月に1回、1年間講師を招いて発声練習や絵本の読み方を学び、勉強しました。平成20年11月27日に会員7名で読み聞かせグループ『たんぼぼの会』を結成し、高齢者施設や小学校で活動を始めました。

そんな折、太田公民館から平成21年10月3日の「高岡市開町400年記念事業」の、「太田の歴史と文化を探訪する歩こう会」に、協力依頼がきました。住み慣れた太田にいるのに、全く何も分からず悩んでいた時に、伏木観光協会『比奈の会』の林悦朗さんが、太田の歴史、伝説について説明する役を快く引き受けてくださいました。太田の名所、旧跡を巡って話を聞いて、美しい自然に囲まれた古い歴史のある太田を感じることができました。10月3日は雨晴コース、国泰寺コースで歩こう会が行われました。首切り地蔵、義経岩、与茂九郎池、朝日観音様の4か所で伝説や解説を、参加者に紙芝居や語りでガイド案内をしました。歩こう会は無事に終わりましたが、自分たちの勉強不足を痛感しました。いろいろな問題点も見つかり、反省から「高岡観光地学習会」に参加して観光ボランティアについて勉強を始めました。

その後、大型バスで「雨晴海岸、磯邊の探索」に参加した長野県の若槻小学校の児童の皆さんを相手に、観光ボランティアを再開しました。美しい雨晴海岸を描いたボードを見ながら山や海の話や伝説を語り、最後に義経伝説で締めくくりました。晴天の暑い日でしたが、皆さんは静かに話を聞き、「ありがとうございました」の言葉をいただきました。ガイド一同ほっと安心したことを覚えています。



さて現在は、連日、県内外の観光客が太田雨晴を訪ねてこられます。雄大な立山連峰、家持が和歌に詠んだ有磯海、美しい自然、素晴らしい文化と歴史のある太田の魅力を語り伝え続けていきたいという思いで、新しいメンバーを加えて観光ボランティア活動を展開しています。太田雨晴観光協会員が2～3人ずつのグループで、当番を組んで毎週土曜日午前中1時間余り、義経岩付近でガイドをしています。立山連峰が隠れて見えない日はパネルを参考に説明をしています。先日、新しく「雨晴散策路」のパンフレットもでき、力が入っています。

5 新たにできた老人福祉施設・特別養護老人ホーム

この50年間に太田にできた上記施設として、平成元年9月に高岡市特別養護老人ホーム雨晴苑が開設、平成9年4月に雨晴クリニックが開院、同時に老人保健施設

アルカディア雨晴が開設されました。また、平成16年には、リゾートビラ雨晴（介護付き有料老人ホーム、住宅型優良老人ホーム）が開設されました。

6 林道の整備と新しい動き

(1) 太田地区の林道計画

昭和47年10月26日にNHK等テレビ局のアンテナが大師ヶ岳山頂に設置されました。その工事の機材の運搬道に呼応して白山林道の整備が自然休養村計画の一環として進められました。白山林道は昭和49年12月24日に開通しました。（延長6,859m、幅4m 国泰寺前～気多神社前）

元々は山から切り出す木材を運ぶ道が白山林道になったと考えられるようです。林道の申請には兼松菊次郎氏、立ち会いに谷内の北村栄太郎氏の名があります。

この他に、昭和49年から50年にかけて林道計画がありました。

林道桜谷線 1.9km、殿山園地整備 7.9km・小谷園地整備 1.8km・

園地取付道路 2.7km・自然休養村農道 2.38km・竹園取付道路 1.2kmの計画

(2) ハイキング、山岳ランニングコースとして

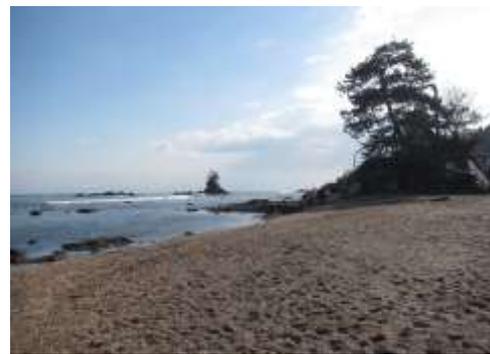
①太田校下散策のハイキングコース

二上山頂上から大師ヶ岳へのコースを、中部北陸自然歩道「二上山万葉を偲ぶみち」として3コースありました（谷内から、山岸カラ、与茂九郎池から）。

②万葉の里高岡「二上山トレイルラン」のコース（一部）

令和4年度に第1回万葉の里高岡「二上山トレイルラン」が開催されました。二上山を舞台とした約25kmの本格的なトレイルラン大会（山岳レース）です。万葉ラインを中心に北アルプスや富山湾の展望が楽しめるとうたっています。太田地区内は大師ヶ岳山頂、与茂九郎池、殿山農園、白山林道がコースになっています。令和5年度は2回目の開催が予定されています。





第三章 太田小学校創校150周年を迎えて



よしつねい〜わくん

第三章 太田小学校創校 150 年を迎えて

1 創校 100 周年からの 50 年間の太田小学校の動き

(1) 児童数の推移及び歴代校長先生方

児童数の推移は、この 50 年間で4分の1に激減しています。この傾向は太田小学校だけではなく、大都会を除く日本中の各県、各地方の学校に見られる現象でもあります。

- ・昭和 48 年 1973 年（50 年前）は、児童数 264 名で 9 学級、
- ・昭和 58 年 1983 年（40 年前）は、児童数 325 名で 12 学級、
- ・平成 5 年 1993 年（30 年前）は、児童数 246 名で 9 学級、
- ・平成 15 年 2003 年（20 年前）は、児童数 157 名で 7 学級、
- ・平成 25 年 2013 年（10 年前）は、児童数 108 名で 7 学級、
- ・令和 5 年 2023 年（現在）は、児童数 64 名で 7 学級という現状です。

※歴代校長先生方（昭和 47 年以降）

年度	校長名	年度	校長名	年度	校長名
昭47～49	秦 成稔	平3～4	中条 滋夫	平24	作井 美佐子
昭50～51	本田 弘	平5～7	藤田 荘	平25～26	島崎 泰子
昭52～53	米田 四良	平8～11	加納 逸子	平27	鳥内 禎久
昭54～55	中村 正義	平12～13	蘭生 弘美	平28～29	片境 俊二
昭56～58	佐野 善雄	平14～15	三國 信孝	平30～令和	新保 満夫
昭59～60	品川 哲夫	平16～18	田形 京子	令2～3	西川 敦子
昭61～63	長田 典正	平19～20	筆谷 京子	令4～	柿埜 哲男
平元～2	五嶋 道雄	平21～23	安元 恵子		

(2) 校舎等改築工事、周年行事と刊行物について

校舎改築については、昭和 49 年に相撲場が完成し、昭和 57 年 10 月に現校舎が完成しています。平成元年 8 月に F R P プールが完成し、グラウンドの拡張工事が行われました。平成 4 年 10 月にランチルームが改修され、平成 22 年 3 月に体育館耐震補強工事が完工しました。

周年行事については、昭和 58 年 9 月に創校 110 周年記念式が挙行され、同窓会名簿が発刊されました。

平成 5 年 9 月に創校 120 周年記念式が挙行され、記念文集「太田っ子」が発刊さ

れました。

平成 15 年 9 月に創校 130 周年記念式が挙行され、太田の教育「學」が発刊されました。

平成 25 年 9 月に創校 140 周年記念式が挙行され、記念文集が発刊されました。

学校だより「都万麻」第 300 号より抜粋

「培われてきたこと」

校長 柿埜 哲男

学校だより「都万麻」が、とうとう節目の 300 号となりました。300 号を書かせてもらうことに身の引き締まる思いと喜びを同時に噛み締めています。

昭和 59 年 4 月、今から 39 年前、当時の校長 品川哲夫校長が「つまま」第 1 号を発行されました。記事を読んでもみると 51 名の新入生を迎えたことや全校児童が 321 名で教員が 20 名であったこと、6 年生が 3 組までであったことなどが書いてありました。第二次ベビーブーム世代で児童が多かった時代ですが、現在の 4 倍以上も在籍していたことに驚かされました。パソコンやプリンターが普及していない時代で、一文字ずつ丁寧に書き上げてありました。太田っ子や地域のために分担して書かれており、先生方の思いや温かさが伝わってきました。当時の先生方は、今年度で全員退職されましたが、先輩方の想いを引き継ぎ、これからも太田っ子を見守っていきたくと強く心に感じました。

(以下略)

(3) 受け継いできた伝統行事

①日の出会

松太枝浜を会場にした日の出の始まりについての詳しい記録は学校に残っていないようです。平成 17 年までは毎年 8 月に実施されていましたが、平成 18 年からは 7 月に実施されるようになり、現在に至っています。



今年もたくさんの児童とその保護者が参加し、ラジオ体操をしたり、親子で海岸清掃に汗を流したりしました。

②左義長

脈々と受け継がれているPTA行事に左義長があります。太田小学校の記録では、昭和44年に小学校グラウンドで実施され、後に昭和47年より松太枝浜にて実施されることになりました。さらに、平成28年(2016年)から松太枝浜の雨晴マリーナ横にて実施されています。毎年児童だけでなく、たくさん地域住民が集まる一大イベントになっています。



③雨晴音頭

太田雨晴を情緒豊かに唄った雨晴音頭(作詞中山輝・作曲永井巳)で、毎年8月に太田小学校で開かれていた「太田ふるさと祭り」では、三味線と唄に合わせて、住民が輪になって盆踊りを楽しんでいました。約30年に渡って元同校区民生児童委員で日本舞踊西川流師範 布野富美子さんが踊りの指導を行ってきました。



昭和59年、踊りで地域に役立てることはないかと考え、飯澤隆夫さんに編曲を依頼して軽快でリズムカルな曲に仕上げていただきました。そして、日本海の波と義経岩をイメージし、雨晴の景色に合う振付を考案しました。その後、本校運動会の全校踊りとして続けられてきました。

雨晴音頭

(中山輝 作詞、永井巳 作曲)

- ホラキタドッコイ ヤレコノセッセと
一、 ハア 岩にかくりよと 義経さまも
夫婦島見りゃ 袖ぬらす
能登をかすめる 帆は風まかせ
胸の照り降りア さままかせ
ホラキタ ドッコイ ヤレコノ セッセと
二、 ハア 松の青さよ 真砂の白さ
さまを松太枝 気もうらら
廻る絵日がさ 手招く 人魚
いつも 心の 雨晴
ホラキタ ドッコイ ヤレコノ セッセと

(間 奏)

ホラキタドッコイ ヤレコノセッセと

三、 ハア 歌の渋谷 家持さまを
しのべやしぶきに 鳴るつまま

心有磯の 貝 手をぬらす

暑さうさなら 波が消す

ホラキタ ドッコイ ヤレコノ セッセと

四、 ハア 逢ふせ深める 二上しぐれ

濡れちゃ色ます 紅葉谷

さまと太田の ひととき過ぎしゃ

虹にかくれる 国泰寺

ホラキタ ドッコイ ヤレコノ セッセと

④つままの舞い

昭和 49 年、富山県教育委員会より太田小学校が「情操教育」研究指定を受けたことを機に、万葉集第 19 巻 4159 番の歌



「磯の上の つままを見れば 根を延えて 年深からし 神さびにけり」を基に、作曲・振り付けがなされました。

作曲は秦成稔校長、編曲は小沢昭巳教諭、振付考案は国多信子教諭が行いました。創校記念式に祝芸として上演されました。その後、平成元年より布野富美子さんによる振付が完成しました。

昭和 62 年に高岡万葉まつり（於：高岡古城公園）、平成 12 年には 2000 年国体採火式に出演しました。他にも、万葉集全 20 巻朗唱の会、太田小学校学習発表会、太田公民館文化祭等に参加してきました。

例年 5 年女子児童によって演じられていましたが、令和 2 年度から川原基子教諭の振付指導により 5 年男子児童も含めて 5 年生全児童で演じられるようになりました。

⑤海岸清掃活動及び漂着物調査

海岸清掃活動は、昭和 58 年に P T A の協力による学校行事として開始されました。平成 11 年に海岸清掃活動が評価され市学校教育振興会表彰を受賞しました。平成 14 年からは毎年、松太枝浜にて児童が行う海岸清掃活動を開始しました。



平成 16 年に地域環境美化により県環境功労賞を受賞し、平成 21 年に海洋保全に関する功績により、海上保安庁表彰を受けました。平成 22 年に地域環境美化功

績者環境大臣表彰を受け、第九管区海上保安部環境保全に関する感謝状が授与されました。平成 23 年に海洋保全に関する功績により海上保安庁長官表彰を受け、平成 28 年に海洋環境保全に関する功績により国土交通大臣表彰を受けました。

漂着物調査は、令和元年（2019 年）5 月に本校 4～6 年児童 41 名によって開始されました。日本財団等が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施され、現在も毎年継続的に取り組んでいます。

2 太田小学校 P T A

子供たちを取り巻く環境は、大変なスピードで変化しています。いじめ、不登校、「いのち」の大切さへの理解、携帯・スマホなど SNS の適切な利用、登下校時の安全・安心の確保等、今日的な課題が山積しています。

P T A は、子供たちすべてが幸せな日々が送れるよう、保護者と先生が協力して家庭教育・学校教育・地域教育を推進し、子供たちの健全育成と教育の進展を図ることを目的とした任意の団体です。

子供たちの原点は家庭にあると言われていています。様々な機会をとらえ、家庭の在り方や役割などについて保護者自身が学習し、子供たちとのコミュニケーションを深め、家庭における教育力の向上を目指してきました。

今回、太田小学校 P T A の活動をまとめてみました。

○令和 5 年度 P T A 活動計画（校区諸行事）

月	PTA 活動計画	校区諸行事
4 月	第 1 回廃品回収、全体役員会、各部活動計画、学習参観・懇談会、P T A 総会、P T A 役員・委員選出	校区祭礼
5 月	役員会、親子環境美化活動、運動会準備、運動会、運動会 P T A 参加種目	伏木中運動会
6 月	第 2 回廃品回収、学習参観、役員会	伏木地区 P 総会
7 月	クリーン作戦、プール監視、広報「おおた」発行、日の出会、学校田草刈り、懇談会	海開き、伏木地区 P 研修会
8 月	校区巡視、親子ボランティア活動、学校田草刈り	
9 月	第 3 回廃品回収、全体会	校区祭礼
10 月	学習発表会準備、学習発表会協力	伏木中学校祭
11 月	役員会、学習参観	校区文化祭

12月	第4回廃品回収、もちつき大会準備、もちつき大会、懇談会	
1月	左義長、新年度役員選出	新年祝賀会
2月	学習参観、親学び講座	伏木地区P報告会
3月	役員会、PTA会計監査、広報「おおた」発行	伏木中卒業式

○太田小PTA組織と委員会活動・・・さらに市P連、地区P連、県P連へ

運営委員会、役員会

学年・学級委員会、学習・教養委員会、生活指導委員会

保健委員会、環境美化委員会、広報委員会

○学年親子活動（令和4年度の例）

- | | | |
|----|-----------|----------|
| 1年 | ドッジビー | 小学校体育館 |
| 2年 | カローリング | 小学校体育館 |
| 3年 | 宝探レクイズラリー | 小学校 |
| 4年 | 自転車安全教室 | 小学校グラウンド |
| 5年 | まが玉づくり | 埋蔵文化センター |
| 6年 | 銅板アート体験 | 小学校 |



3 太田校下児童クラブ連合会



昭和38年設立と思われます。記録はないですが、高岡市児童クラブ連合会の設立が昭和38年だからです。太田校下では、松太枝、中村、伊勢領、山岸、西田・

谷内の5児童クラブの連合体になっています。小学生、中学生及び、側面から支援するその保護者（育成者）、指導者（世話方）で組織されています。

その活動は、遊び・レクリエーションを中心にスポーツ活動、文化活動、創作活動、体験活動、獅子舞など幅広いです。その体験を通して、生きる力を身につけた、よりたくましい子に育つようにという願いが込められています。

太田校下の特徴的な事業として「子どもと花祭り」があります。毎年春先、国泰寺で清掃奉仕をし、澤大道管長のお話を聞き、仏様に甘茶をかけて心身の健康を願い、最後に筍めしをいただくというものです。例年たくさんの子供たちが参加し、30年余り続いている事業です。

児童クラブと言えば、「放課後児童クラブ」や「学童保育」と同義とする傾向がありますが、太田地区の場合は、両者は別個の組織です。

児童クラブは、子ども本来の快活さや明朗さ、知的好奇心の高揚等に寄与する際、安全安心を確保するために大人が手を貸すという活動です。季節や地域の特性を意識した行事、新しいタイプの活動等を取り込んでいます。

※安全共済会…安心して活動できるよう、事故やけが、疾病などについて保障する制度で、子供全員と育成指導者の加入が必須条件となっています。この制度が始まって以来、太田校下の子供の加入率は100%です。

○児童クラブ事業（令和4年度）

月	活動内容	市児童クラブの活動
4月	資源回収、役員会	
5月	こどもと花まつり、役員会	
6月	役員会、ラダーゲッター大会（練習会）	
7月	高岡市児童クラブレクリエーション大会	レクリエーション大会
8月	写生大会、写生展絵画審査	
9月		写生展示作業・撤去
10月	役員会、高岡こども祭り設営、高岡こども祭り	
11月	ボウリング大会	
12月		
1月	伏木地区児童クラブ書初め大会、役員会	
2月	卓球大会、会計監査	
3月	新旧役員会、定期総会	

4 子供たちを守る新しい活動や組織

(1) 太田小学校同窓会の歩み

○発足

昭和 56 年 7 月 19 日発足

昭和 57 年 10 月の校舎改築に先立って、太田小学校同窓会が発足しました。

初代会長 滝田金蔵

○同窓会会員名簿の作成

第 1 版 昭和 58 年 10 月発行

小学校創校 110 周年を記念して、大正 11 年度卒業生～昭和 57 年度卒業生

第 2 版 平成 5 年 8 月発行

小学校創校 120 周年を記念して、昭和 58 年度卒業生～平成 4 年度卒業生

第 3 版 平成 16 年 3 月発行

小学校創校 130 周年を記念して、平成 5 年度卒業生～平成 15 年度卒業生

第 4 版 令和 5 年 9 月発行予定

小学校創校 150 周年を記念して、平成 16 年度卒業生～令和 4 年度卒業生

○同窓会入会式

毎年 3 月、6 年生の卒業式直前に開催しています。(会長対応)

○入学式・卒業式

会長同席

○運営（役員会）

年 1～2 回開催、新任校長先生を交えて

○歴代会長

瀧田金蔵

吉井直敏

宮口進

飯澤隆夫

松林郁夫（現在）

○会員数（令和 5 年 9 月現在）

5,986 名

(2) 太田小学校教育振興会

平成 11 年 4 月 太田小学校教育振興会が設立されました。太田っ子の学習環境や生活環境を向上させるよう、陰になり日向になり手を差し伸べてくださる存在です。

○歴代会長

竹山武郎

齋藤祐一

嶋 耐司（～現在）

(3) 「太田ささりんどう隊」の発足と活動

- ・平成 17 年 7 月 15 日地域安全パトロール「太田ささりんどう隊」結成。
初代隊長は竹山武郎氏。隊員 85 名。校長は田形京子校長、全校児童 156 名。
- ・当時竹山会長は、教育振興会長と併任し、その後平成 20 年 4 月からは山下進也氏に。平成 26 年 4 月から現在に至るまで竹林昭夫氏に移行しました。
- ・隊員は、各自治会が責任をもって選任していて、5 名以上の方々が見守り活動についておられます。隊員は、毎朝夕、帽子とジャンパーを着用し、腕章をつけています。年代は、児童の祖父母年代の方が多く、自営の方や孫のいる方々等、男女を問わずに協力いただいています。
- ・自治会によっては、辻々に立って見守り活動をするところや、曜日によって当番制を敷いているところ、毎日出て付き添い活動をしているところなど、実情に合わせて協力していただいています。
- ・連自治会から毎年、活動費が援助されています。ジャンパーや帽子の更新等に充てています。また、児童の下校時刻の変更や天候等による特別な事情などは、学校からプリントや太田小学校安全メール等で知らされることになっています。

5 太田っ子の新しい動き

(1) 「ゆめの町 太田」の披露

平成 30 年に、富山県小学校教育研究会 音楽部会 研究推進校の指定を受け、音楽集会等が盛んに行われるようになりました。翌 31 年「ゆめの町太田」(作詞・作曲・演奏・振付 川原基子教諭)が作られ、様々な機会に披露されました。

当初、川原教諭を中心に 2・3 年生がふるさとを調べる学習に取り組み、その活動を通じて地域のよさに気付いていくようになりました。その中で生まれたこの歌は、ふるさと太田に寄せる思いをイメージして作ったものです。初めは、2・3 年生が感謝の集いや学習発表会で披露していましたが、次第に全校集会や入学式の歓迎の歌等で歌うようになり、今では太田っ子にとってなじみ深い歌となっています。

「ゆめのまち太田」

(作詞、作曲 川原基子)

みんなの笑顔が かがやいてる町
太田の町に今 夢ひらく
自然がいっぱい 生き物となかよし
歴史ある場所が続く
すてきな伝説にあふれる この町に

みんなが集まるよ

まごころあふれる 太田のみなさん
いつもありがとう あいさつがひびく
そんな優しい人たちに 見守られて
みんなの夢も ふくらむよ
ゆめの町 太田 ゆめの町 太田
ゆめの町 太田



♩ = 125 ゆめの町 太田 作:川崎基子

Handwritten musical score for 'Yume no Machi Taiga'. The score is written on a grand staff with a treble clef and a 4/4 time signature. The tempo is marked as ♩ = 125. The key signature is one flat (F major/D minor). The lyrics are written below the notes. The score includes various chords and musical notations such as rests, slurs, and dynamics.

みんなの夢も あふれる
おたのまちに いま 夢の町
せいが いっぱいで いまの とほかよし
ほしある ぼくづく
すてきな せつに あれる このまに
みんな あつまるよ

Printed musical score for 'Yume no Machi Taiga'. The score is written on a grand staff with a treble clef and a 4/4 time signature. The tempo is marked as ♩ = 125. The key signature is one flat (F major/D minor). The lyrics are written below the notes. The score includes various chords and musical notations such as rests, slurs, and dynamics.

まごころ あふれる おたのまち
いつもありがとう あいさつがひびく
やさしい人たちに 見守られて
みんなの夢も ふくらむよ
ゆめの町 太田 ゆめの町 太田
ゆめの町 太田

(2) 新型コロナウイルス感染予防対策

全世界に脅威を与え、猛烈な勢いで感染が拡大した新型コロナウイルス。その感染予防対策として、令和2年3月2日から3月24日まで全国の小・中・高等学校が一斉に臨時休業となりました。さらに令和2年4月13日から5月31日まで再び臨時休業となりました。

さらに、この年度の夏季休業期間は令和2年8月8日～8月19日と短縮され、授業時数の確保が求められました。各学校の各教室には冷房設備が完備され、体調管理に配慮されました。その後、12月24日から学習専用端末が全児童に配付（貸与）されました。これにより、自宅でのオンライン授業への参加が可能となりまし

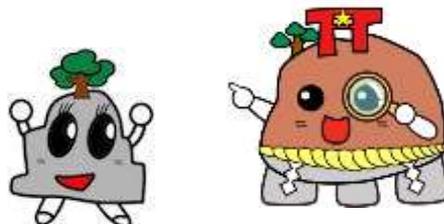
た。

さらに、令和3年1月8日から1月13日まで再び臨時休業となりました。このように現在まで3回の臨時休業が実施され、オンライン授業への対応を可能にするための学習専用端末配付（貸与）が行われました。また、密集を避けるため、学校行事等の見直し及び削減、入場者数の制限等の措置をとることが強く求められ、可能な限り対応する努力をしてきました。

(3) ゆるキャラの「め・い〜わちゃん」と「よしつねい〜わくん」誕生

地域PRのために、地形の特徴や特産品を取り入れた個性豊かなキャラクターが全国のあちこちに誕生しています。わが太田では、平成26年3月18日、雨晴海岸が「奥のほそ道」の風景地として、国の名勝に指定されたのを好機ととらえ、地元太田小学校の子供たちが女岩を、続いて義経岩をキャラクター化して誕生させました。

現在は、校内の掲示物や学校行事の主役に、また学校だより、PTA機関誌等に再三登場し、親しまれています。



6 太田学童保育について

(1) 太田学童保育の起こり

昭和57年8月、高岡市で初めて、児童数6人で民家を借りてスタートしました。その後、校下の皆様のご協力を得て、翌58年からは厚生省の都市児童健全育成事業として国、県、市からの補助を得て、場所も今の太田公民館に移転しました。

子どもたちは学校からまっすぐ学童保育に帰って、夕方帰宅するまで学童保育のスペースで生活します。年齢の異なる子どもたちですが、宿題をし、共に遊び、生き生きと放課後を過ごしています。

(2) 令和4年度の現状

支援員 5名

学童児童数27名

活動場所 太田公民館2階ホール

活動時間 平日 放課後～17:30

夏冬春休み 終日 8:30～17:30

①ねらい

- ・異年齢集団の中で共に遊び、協力して生活する力をつける。
- ・我慢する力をつける。
- ・遊びを通して自主性、創造性の向上を図る。
- ・昼間、保護者のいない家庭の児童育成・支援に資するため遊びを主とする健全育成活動を行う地域組織として地域児童育成クラブを設置し、児童の健全育成の向上を図る。

②活動内容

放課後

登所→ 宿題→ 自由遊び→ 16時おやつ→ 自由遊び→ 17時30分帰所

休業日

8時30分登所→ 自由遊び→ 10時学習→ 自由遊び→ 12時昼食→ 自由遊び→ 15時おやつ→ 自由遊び→ 17時30分帰所

※「自由遊び」は、子どもたち自身が考え、好きな遊びを見つけること。

ブロック、ボードゲーム、読書、ラQ、テレビ、ビデオ、ビーズ遊び、けん玉、編み物、フラフープ、知育玩具等

③行事

工作教室、食育指導、バルーン教室、マジックショー、バスハイク、クリスマス会、お楽しみ会等、地域の皆様のお力添えで行っています。

子どもたちを取り巻く環境は変化を続けますが、これからも「第2の家庭」を目指し、子どもたちが安心して過ごせる場所であり続けられるように、支援員は地域の皆様と共に一丸となって成長を見守っていきたいと思います。

7 太田保育園の歩み

(1) 沿革の概要

施設の名称 高岡市太田保育園

所在地 高岡市太田 644-1

設置許可 昭和 39 年 1 月 1 日

定員 60 名

- ・昭和 38 年 12 月 園舎竣工 地元婦人会、自治会の強い要望で設立
- ・昭和 39 年 1 月 開園（敷地面積 1,795.47 m²）定員 60 名 11 月倉庫増築
- ・昭和 40 年 4 月 定員 90 名 『太田保育所』が『太田保育園』に改称
- ・昭和 46 年 8 月 石山築造
- ・昭和 49 年 3 月 創立 10 周年記念式典挙行

- ・昭和 52 年 10 月 保育室増築及び内部改造・便所水洗化
- ・昭和 58 年 11 月 創立 20 周年記念式典挙行 職員室増築
- ・昭和 60 年 10 月 保育室、廊下床面改装
- ・平成元年 3 月 園舎改築
- ・平成 4 年 11 月 創立 30 周年記念式典挙行
- ・平成 9 年 4 月 特別保育事業、障害児保育「保育所遊びのひろば」開始
- ・平成 14 年 11 月 創立 40 周年記念式典挙行
- ・平成 20 年 4 月 定員 60 名
- ・平成 24 年 11 月 創立 50 周年記念式典挙行
- ・令和 4 年 11 月 創立 60 周年記念式典挙行

(2) 保育園に寄せる想い

かわいいわが子を託して安心して働きに行きたい、という母親の思いに応えるように、自治会、婦人会、土地改良区をはじめとする村全体の力で、昭和 35 年から 3 年がかりで市役所に陳情に通った結果、保育園の建設が決定しました。昭和 38 年 12 月 23 日に完工、昭和 39 年 1 月より開園の運びとなりました。

定員 60 名に対して入園希望者が殺到し、入園できなかった保護者から苦情が相次ぎ、保育室が 1 室増築となり、昭和 40 年 12 月には定員 90 名となりました。園の設備も、創立当時は遊具も数少なく、園児は手作りのぬいぐるみで遊んでいました。建物は、必要に迫られその都度増改築がなされましたが、立地条件が悪く、風通しが悪く段差が多い、部屋割りの使い勝手が悪い等、いくつかの悪条件が重なっていました。そこで園児の健康と安全性を憂慮した校下有志は市役所へ訴え、改築の要請を始めたのでした。

平成元年 3 月、明るい吹き抜けのホール、曲線を生かした園舎として当時はユニークな夢のある保育園として、市内外から見学に来るほどの新しい保育園が完成しました。太田保育園は素晴らしい自然環境に恵まれ、子どもたちが学校に入るまでの基本的な生活習慣やしつけ、豊かな心、温かい心をご家庭と共に育むことをねらってきました。また、未就園児を対象とした子育てサロンを開き、「赤ちゃんにここ教室」に協力し、地域の子育てへの支援にも努めています。

○修了児数

第 1 回～10 回修了児	376 名	第 11 回～20 回修了児	438 名
第 21 回～30 回修了児	286 名	第 31 回～40 回修了児	245 名
第 41 回～50 回修了児	155 名	第 51 回～60 回修了児	104 名
合計 1,604 名			